

國學院大學 教職課程科目

ICT教育の理論と方法 第5回



遠隔授業の意義と運用

高等学校情報科教員 稲垣 俊介

※宿題の入力フォームは私のWebにあります。

課題

「情報モラル」の授業スライドを**PowerPoint形式**で作成してください。
もしPowerPointをお持ちではないならば、大学のPC室での作成をお願いします。
スライドのノートの部分にはそのスライドで話す内容を示して下さい。

作成するのは50分の授業ですが、**授業内で紹介できるのは7分となります**（申し訳ないのですが、発表準備を含めて7分で切らせてもらいます）。

どのように紹介すれば良いのかをよく検討し、聴衆である学生さんや私（稲垣）にわかりやすく発表にしてください。

ちなみに紹介スライドを作るのではなく、あくまで**作成するのは授業スライド**であり、かつプレゼン時には同じスライドを使います。

発表の際に利用するのは自分の端末です。私の端末はお貸してできませんので、ご自身でご準備ください。

課題

情報モラルの授業で利用する素材は**すべてPowerPointに埋め込む**ようにします。授業で配布するプリント等はWord形式で追加で提出できますが、プリントの配布は講義ではできませんので、聴衆に理解をしたもらえるための工夫も必要です。

できるだけ**全員が発表していただくつもり**でおります。ただ、発表できるのは**1講義あたりで発表できる人数に限り**があります。

もし前半で発表する学生さんが少なければ、後半は希望者が増えるかもしれません。しかし、それでも発表できる時間は増やしません。

よって、出来るだけ前半で発表をするのが良いと思いますが、自由に希望者順の発表としたいと考えます。

実際に私の高校の授業でも同じ形式なのです(このあたりは講義内でも触れることができれば触れますね。)

課題

- K-SMAPY II を通して提出です。
- 再提出可能です。再提出を含めて最終提出日は12/10(日)の21時までとなります。
- 発表日は12月18日, 12月25日, 1月15日(ここは厳しめ)となります。
- 締め切り後や他の方法での提出等は一切認めません。余裕をもって提出しましょう。

前回の課題提出より

実習A

「先生」と呼ばれることでの態度についてですが孔子などの、子=先生のイメージからもあるかと。みんながみんな孔子みたいな人ではないのにも関わらず、また孔子が必ずしも100%全員(国籍、年齢、性別問わず)がいつも必ず見習わなければならないというわけではないのに…記述に関しましては私も必要ではないと思います。もちろん選択式にも記述式にも求められる力は異なりますが、「国語」という教科において、測る力は選択式の方が適していると感じます。

記述問題の必要性は私は必ずあると思いました。小学生の記述の回答を見ていると、聞かれていることを的確に答えられる人は意外と少ないです。インターネットが普及している今だからこそ、文字だけの情報をいかに歪曲せず正しく読みとるかという力が不可欠だと思います。

教員の仕事は第一に子供と接することだと私も思うので、先生が言っていたようにAIやICTを導入することはとても重要であると思いました。また、教員は首にならない仕事であるというお話は本当にその通りだと思いました。これは自分で仕事をしなければ、成長できないという事だと思うので自分から行動できるような社会人になりたいと思いました。

チャットGPTを教育現場で使用する事は良いことだと思います。学校が終わり社会に出ると当たり前のようにチャットGPTが使われる世界なのにも関わらず、学校ではそのやり方を教えないという事は良くないことだと思います。

書類などICTで十分にできることなら、子どもとの時間を増やすために置き換えていくべきだというのは本当にその通りだと思う。変化を受け入れられる柔軟な人間でなければ、柔軟な教育はできず、子どものためにもならない。

苦勞が美德とする考え方については、確かにおかしいがその苦勞が、意味のあるならそれは努力であって、そうだとしたら可能性を広げることとなり、その捉え方の問題だと思う。

作文におけるChatGPTの使い方について、作文を書いてというのと作文のための資料を教えてもらって、それをもとに考えて自分の意見を入れて構成するだとか、そのプロセスが、その経験が大切であって、ネットの寄せ集め作文を写すのが良いなら最初から作文なんて必要ない。

「先生」という言葉がとても面白いと思った。考えてみると、教員もそう呼ばれるし、医者や政治家、漫画家なども呼ばれると思った。いずれにせよ人の上に立っている、偉いなどのようなイメージがわくが、教師は英語ではteacherと言われるように、偉いのではなくて子供に教え導く職業だと思う。まさに世間知らずな頼りない教師にならないようにしようと強く思った。

小学校では大体の授業を担当の先生が教えるため教科間連携を取ることができると聞きましたが、中学からは先生が教科ごとになるためその点教科間連携が難しくなると思いました。もしこれを実現するのであれば、教師側が別の教科についての知識をつける必要があります。

おそらく採用倍率が低かったりそもそも教師になりたい人が減っているからだと思うが最近教員免許を持っていなくても教師になれるような制度ができそうになっているという話を聞いて大学でわざわざ教職課程を取って実習まで行ってるこっちの立場は何なんだと思った。そこまでして教師を増やしたとしてもそれは教師という肩書をもった人を増やしただけで、生徒を教えて導くという教師という職に就く人を増やしたと言えないのではないか

意見を統括して感じたのは、当たり前ではありますが、自分自身と私たちが教える生徒とでは全てのことに對して感覚が違うのだなということです。例えば震災について体験をしている私たちの世代と、文字や映像でしか知らない後の世代では、震災自体についての関心も、訓練に対する心持ちも違います。また生まれてからAIがある感覚も私たちにはありません。その感覚の違いを無くすのではなく活かしながら学びの手助けができるようになりたいと思いました。

苦勞することが美德だという考え方は誰でも持っている気がした。苦勞していないと頑張っていないと自分自身も感じるし自己嫌悪に陥りがちだと感じた。

chatGPTはインターネットの寄せ集めなのだから、間違っている情報が多く混ざっていることから利用は推奨しない方が良いと思う。インターネットの利用は良いが自分で情報の取捨選択をさせるべきだと考えるし、chatGPTを制限なく利用したが多くの人がchatGPTの結果に依存してしまうと思う。

教員の役割が変わっていく、知識を教えることは減っていくと知り、大学で今学んでいる研究力が活かされていくのではと感じた。

何かが変化していくことは確かに怖いけど、それよりも何も変化しないほうが怖いような気もする。もし変化を押しとどめてしまったら、いざ変化しないといけないうちにその変化の幅がとてつもないものになってしまう。変化が嫌であるなら嫌であるほど、少しずつ変化を受け入れていくことが必要ではないのだろうか。

一点目に「教育」は柔軟に変化していかなければならないものであるということが印象に残りました。古くからの形式も大切だとは思いますが、それに固執してしまうと面白味のない、中身のない「教育」になってしまうのではないかと感じました。

二点目に、試験の記述の必要性について考える必要があるということです。私は記述式の問題を必ず取り入れる必要はないと考えています。もちろん記述の問題によって培われる表現能力は身に着けるべきです。しかし、やはり採点にかかる時間や不正確性などを考えると記述式を取り入れるメリットの方が少ないように思えてしまいました。

実習2

この授業は何を学ばせる授業でしょうか。深く考えてまとめてみましょう。

情報の共有は簡単に人を傷つける内容であることもあるため、いじめにつながらないようにするためにもより考えて行動させるための授業であると思います。

SNSなどを使用する際に、どのようなことを気を付けなければならないのか（言葉の使い方など）、他の人が見るとどのようにその人の目には映るのか、それが公に出たらどのようなようになるかを学ばせる授業だと思う。

SNSへの投稿や、送信したメッセージテキストがどのようなトラブルを生じさせる可能性があるのかについてを、自らの体験などに照らし合わせながら考察していく授業であると考えた。また、一つ一つの投稿が、将来どのように自らに影響する可能性があるのかについてを考える時間であるとも考えた。

この授業は情報モラルや、授業作成も含めて使い方のプロになる事が必要だと思いました。

生徒に使い方を教えることも役割（自分が守るのはもちろん）、授業でコンピューターや情報教材を用いてできるようにする力を学ぶ授業だと思いました。今までの上から教えるのではなく生徒と一緒に考える授業への変化を学べると思いました。

自分がされたらどう思うのかを考えさせたり、自分の行動や言動を見つめなおす機会になる。正しいこと、間違っていることを知識として教えるのではなくて、自分自身で気付くことによって学ばせる授業だと考える。

実習3

この授業で学んだことを「深く」考えて書きましょう。

ネット主にSNSはとても便利であるがそれと同時にとても怖いものである。簡単に人を仲間はずれにすることができるしいじめの道具にもなる。実際に自分が通っていた中学でもそのいじめがあり、身近に怖いものだと感じることもできる機会ではあった。相手がどう思うか、などを考えながら行動を起こすことが大切

感想：今回の授業では、情報モラルについて学ぶことが出来ました。

実際にありそうな出来事を例にして考えてみるとゾッとしました。情報モラルという言葉は教科書上の言葉に感じる時もありますが、実際のAIが発展した現代では、すぐ身近にある事だなと思いました。

顔が見えない分、表情が分からない、だから些細な事がトラブルに繋がるし実際に学校で話してるような感じ話すと痛い目を見る。SNSアプリは無料なのが多いがその分、その分使い方を考える必要があるので無料と言う悪魔に惑わされ無いようにしたい

情報モラルに関してSNSの利用の危険性を教えられている稲垣先生ですが、先生ご自身はどのようにSNSを使われているのかが気になりました。メッセージを送る際に気を付けていることや、アカウントを持っているかなど、先生のSNSとの付き合い方を教えていただきたいです。

SNSに書いた情報はすぐにはばれるという怖さを再認識しました。安易に自分や他人の情報を載せたり、悪口を書き込むことは学校で多く問題になっていると思います。SNSに情報を書くことで自分が不利になるという真実を教員側が積極的に生徒に伝えていく必要があると思いました。

SNSでの友達とのトラブルはよく聞きます。喧嘩をした時もラインなどでやりとりをしてヒートアップしてしまうケースがほとんどだと思います。世の中が便利になるにつれて、人のかかわりがやはり薄くなってしまふのが欠点なのではないかと思います。因果関係があるかわかりませんが、友人関係のトラブルが増えたと感じます。

今回の授業を受けて、SNSでは書き方により受け取り方が大きく異なるということを再認識できた。また、SNSを含めたインターネットは、ほとんどすべての人がかなりの回数使うが、学校がおこなっていたインターネットの授業はかなり形式的、抽象的なもので具体的な例などはかなり少なかった記憶があります。現在では、中学生、高校生はもちろん小学生でもスマホを与えられている子供は多いのもっと具体的な例を交えて、深いところまで教えてほしいと感じました。

情報モラルに関して人それぞれで受け取り方が違うからこそ、今の内から気を付けるようにしていくべきだと思いました。ただこれは考え始める時間が早ければ早いほどその考え方が身につくのが早いいため、早くから考えられるように学校で情報モラルの授業を作ることはとても大事だと思いました。

学生コーチをしているのですが、部活に対する熱量を全体で統一する方法がよくわかりません。何か良い方法がありますか？

ラインの内容が生々しくておどろきました。

勧誘の意味で送った内容に対して「いいよ」ではなく「やりたい!」と言える人が好かれると思います。なんだかカップルの喧嘩のように感じました。!をつけるのは思いやり、それひとつをつける苦勞すらできないのは気遣いが足りてないということを友人が言っていて私はとても納得したのですが淡白なラインを送る友人は疲れると言っていたので

ネット上のコミュニケーションはやはり難しいと感じた。日時や場所の連絡などに関しては正確な情報伝達が可能であるが、自分が思っていることと実際に相手に伝わるのが異なることが大いにある。そのため、相手に誤解を与える言い回しや発言に十分注意を払う必要があり、自身の気持ちを正確に言語化する能力や相手の気持ちになって考える能力が必要であると思う。せめてメッセージを送信する前に相手がどう思うか確認することは必須であると思った。

これまで、児童生徒同士のいじめというのは主に学校内で起きるモノであったが、便利なSNSが普及したことによって、学校の認知しにくい場所でもいじめが頻繁に起こるようになってしまっているのではないだろうかと考えた。SNSは便利なコミュニケーションツールであり、もはやなくてはならないものであるからこそ、家庭だけではなく学校でも使い方について考える機会を設けることが必要となる。

道徳の授業と同じように、情報モラルの授業はとても重要なものだと感じました。それが、どれだけ効果を発揮できるかはわかりませんが、自分では些細なことだと思っている発言が人を傷つけ、最悪の場合人を殺めてしまう可能性もあることを自覚してほしいと感じました。また、簡単に情報発信ができるからこそ「伝える力」が大切だと思いました。ネット上だけでなく、発信するときは一回立ち止まって考えることを意識していきたいです。また、一言で生徒の人生を大きく左右する教員の立場だからこそ、こういった情報モラルに常に敏感でいたいです。

自分がアイならあの後どのように答えるかというのに、真剣に悩みました。そのくらい自分がどう発言して行動するのが良いのか、様々な可能性が考えられるため難しかった。そして、この自分の発言がどうなっていくのかを考えることがまさに情報モラル教育なのだなと感じました。

メールなどでは気を付けて送らないと不愛想になり、起こっているのかと思われることが多い。そのため、自分は「笑」を最後に着けてしまう癖があります。

これがついているだけで、文が少しは柔らかくなるのではないかと思っています。

正直人間だから好き嫌いや合う合わないという事は必ずあるはずで、自身の事を振り返っても実際にありました。嫌いや苦手・合わない人と話すことが嬉しいという人は少ないと思いますし、なんなら早く終わらせたい・話したくないという気持ちが強いと思います。嫌い・苦手とイジメの境界線があいまいだからこそ、LINE風の文面を見てイジメかどうか意見が分かれるのではないかと思いました。

また、男女でイジメの性質も異なるのかなと感じました。中高男子校だったので女子の方は推測になるのですが、男子はその場ですぐ喧嘩になり気付いたら仲直りしている、叱れば凹んで反省するなど良くも悪くも素直で感情的な事が多かったような気がします。それに対して女子のイメージは、男子ならすぐ喧嘩になるところを、SNSで悪口やLINEで無視など発見されにくい・分かりにくい方法のイジメが多いように思いました。

メールなどでは気を付けて送らないと不愛想になり、起こっているのかと思われることが多い。そのため、自分は「笑」を最後に着けてしまう癖があります。

これがついているだけで、文が少しは柔らかくなるのではないかと思っています。

これからの時代を生きていくうえで情報モラルについての教育は必要不可欠であると感じました。情報技術が発展していくことは大きな進歩であり、私たちの生活はより豊かになっていきます。中高生にとってその最も身近な例がスマホだといえるでしょう。しかし、それを利用することで巻き起こるトラブルや問題も多くなっていくことを忘れてはいけないと思います。生徒たちにそれを活用する際の注意点やリスクなどをしっかりと伝えていくことが教員としての一つの役割であると感じました。また生徒たちの間で起こるそのようなトラブルも私が学生だったころとは全く違うものになっていくと思うので、教員自身も様々な面にアンテナを張って学んでいくことが必要になると感じました。

今回プロジェクトの文字が周囲が明るすぎて少し見えにくく感じました。プロジェクト側の電気だけ消していただくことが可能でしたら次回からお願いいたします。

グループを作った理由によっていじめなのかそうでないのか判断できてしまうことに気づかされた。やはりこれも伝え方の問題であるように思う。

二回目のグループの方には同情するが、一回目のグループの方には女子のいやなところが詰まっているという印象を受けた。

相談事をする際に、どうしてこうなったのかを詳しく説明したうえで、何のために相談をしているのか深堀をする必要がある。このあたりは国語力の問題であり、難しいと感じた。

・授業で使用したパワポはその日中に公開していただけると幸いです。授業後に振り返っていると忘れてしまう点多々ありますので。(メモだけでは補いきれない部分もあり)

実習A

皆さん（稲垣を含む）の意見を聴いて、さらに
思うことがあれば自由に書いてみてください。

講義

遠隔授業の意義と運用

① ICTを活用した学びの保証

- 遠隔教育
- 学びの保障
- 中山間地域
- 遠隔合同授業
- オンライン学習

② 遠隔合同授業

1. Web会議システム モデル
2. テレビ会議システム モデル
3. 遠隔会議システム+児童生徒用端末 モデル
4. 臨場感 モデル
5. 複式学級 モデル

文科省(2020)

実習！

遠隔合同授業で教師が意識することとして
考えられることを書いてください。

③ 学校と家庭を同時につなぐ
オンライン授業

1. 子どもたちが全員学校にいないケース
2. 学校で授業は通常通り行われているが、特定の子どもが登校できていないケース ハイブリッド型授業
3. 朝の会で健康観察を行うケース
4. ライブ配信サービスを用いた学校行事の配信するケース

日本教育工学会(2020)

実習2

オンライン授業において、子どもたちに授業に飽きさせない工夫について考えましょう。

存在を感じ取れる配慮

1. コスト面
2. 健康面
3. 著作権

著作権法第35条が適用となるか？

[改正著作権法第35条運用指針 - 文化庁](#)

実習3

遠隔授業のデメリットは何でしょうか？

そのデメリットとどうやって克服しますか？

まとめ

教室の授業に近づける、
さらにそれを超える授業にすることが目標です。